

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム 藤野いこいの家(花見館)	評価実施年月日	平成 20年 1月 1日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名	柴田 直樹	記録年月日	平成 20年 1月 1日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>開設時から4つの運営理念と基本方針を作り、これをもとに日々の介護をしている</p>		
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>日々の介護のなかで話し合い、フロア一会議、施設連絡会議を通して共有化を図っている。また運営理念を見やすい位置に掲示している</p>		<p>従来からの職員には十分に浸透していると思われるが、新人職員についてはその都度十分に教育していく</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>地域の説明会、広報誌を年5回発行している。入居時や行事等の家族交流会で説明し、理解していただくよう取り組んでいる。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>近隣の方の庭等、拝見した後挨拶をしに行ったり、当たり前の付き合いを大事にするよう管理者、スタッフ共に努めている。</p>		<p>気軽に立ち寄ってもらえるよう日常的な付き合いができるよう努める。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域の夏祭りに参加したり町内会に入らせてもらい、町内会での行事は利用者と一緒に参加させて頂いたり、利用者が参加できない行事がある時はスタッフが参加して交流を図っている</p>		<p>地域の老人クラブで当法人スタッフの講演等の参加はあるが、利用者が参加できるよう取り組んでいきたい</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域に皆様が暮らしやすいように認知症についての講演会を行ったり、各種ボランティアの受け入れ、研修の受け入れ等に取り組んでいる。またフロア一会議、施設連絡会で話し合いの場を持つよう心がけている。</p>		<p>地域の高齢者等のニーズを把握するため運営推進会議での話し合いや、地域の会議などへ積極的に参加する事により、実際の取組みに結び付けていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>職員会議の場で全職員に質の評価の意義を周知させ評価の結果についても共通認識して実際の職場ではサービス改善の方法を具体的に話し合いをして取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議で報告や話し合いを行い、意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市町村職員や包括支援センターに訪問し、関係作りを行っている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>地域権利擁護事業や成年後見制度についての研修に参加し学んだ事をフロア会議等で発表する事で理解を深めている。また利用者1名が9月より成年後見制度を利用開始したのを機に、制度について理解を深められるようケースの実際とも関連させて勉強会を行った。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>管理者、職員は高齢者虐待防止研修会に参加した後に、伝達講習を設け、スタッフ全員で学ぶ機会をもち虐待に関する意識を高め、防止につながるように努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>利用者や家族の意向を十分に受け止め、十分な説明により理解、納得を得ている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日々の会話から、利用者様の意見、不満、苦情を聞き取れるように心掛けている。玄関に意見箱を設置する事で匿名でどなたでも意見できるよう配慮している。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>定期的に日常の様子を手紙にし家族に送付している。また急病、定期受診時、健康上の変化がある場合その都度電話等で報告している。お小遣いなどの小口預かり金収支明細については、毎月報告承認を得ている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族がホーム来所した時に、必ず話し合える時間を取り、意見や不満を出しやすしたり、家族の意思を確認するよう努めている。苦情処理窓口設置、外部への相談体制も明確になっている。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月の定例職員会議で、話しやすい雰囲気を作る事で色々な意見が出てくる。また管理者と職員と二人で話す機会を設けこれらの意見を吸収し活かしている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>できるだけ状況に合わせた対応ができるよう始業時にはスタッフ間で予定を話し合い、また急きょ必要事態に於いても勤務調整し、協力体制で業務を進めている。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>基本的には、各ユニットのスタッフは固定して、顔なじみのスタッフによるケアを心がけ信頼関係を築いている。異動などでやむを得ない場合は、その時期や引継ぎの面で最善の努力をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>当法人の計画に沿った、あるいは職員の希望する研修会への参加、資格取得のための学習、トレーニングを推進している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>区内、管理者連絡会、交流会が定期的であり、そこでの勉強会、情報交換によりサービス向上に役立てられるよう支援している。</p>	<p>同業者との交流が個人単位のもので施設単位では行われていないので今後交流を持てるようにしていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>日常や面談時にスタッフのストレスや悩みを把握するよう努めている。また、職員同士の間関係性を把握したりするよう努めている。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>スタッフの資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を聞きながら職場内で活かせるよう環境づくりに努めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入所前に自宅を訪問したり、また施設や病院に出向き本人と会って話をする機会を積極的にもち、本人自身の気持ちを聞き、受け止める努力をしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>事前に自宅を訪問したり、施設へ訪問していただく機会を作り、家族が困っていること、不安に感じていること、求めていることを良く聴き受け止める努力をしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	通所介護、小規模多機能型居宅介護も有しているので関係者とも相談し、支援、対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入所前に何度か施設を訪問していただき場の雰囲気慣れて、のち安心して生活をしていけるよう工夫、配慮している。家族とも事前に良く相談して共に協力的に進めている。		日帰り、食事会、入居を前提としたステイ等も検討している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	自分で出来ることはして頂き、役割を持つことで自信に繋がるようにしている。職員は人生の先輩である利用者様を尊敬しており、季節の行事、礼儀作法等を教えてもらう場面作りをしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	日々の生活を手紙、写真、電話で伝え、情報を共有するよう努めている。またご家族と一緒に参加できる行事を企画し関心を持ってもらう事で一緒に支援するようになっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	今までの本人、家族の生活やそれぞれの思いを受け止め、理解しより良い関係が築いていけるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	本人が今まで通っていた理、美容院・老人会等は通えるよう配慮している。また自宅に帰りたいたいという希望にも対応できるよう心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日ごろの席配置、行事時の役割分担は利用者様の関係、または能力に応じたものになるよう支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約終了した利用者様が遊びに来られたり、電話を頂いたりしている。どのような方にも門戸を閉めるようなことがないように心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の本人の言動や家族等からの情報により、出来る限り本人の望みを叶えられるよう心掛けている。得られた情報は介護計画書に挙げ、実現にむけてケアに組み込んでいる。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族、本人からはもちろん、以前利用していた病院、施設の職員や担当のケアマネージャーから情報収集し経過の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の生活での言動、動作や、訴え等を見逃さないよう注意してケアするよう心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	個別ケース毎、スタッフの受持ち制をとっており、介護支援専門員の監理のもとにケースカンファレンスの場で関係者全員で話し合い、意見を取り入れ計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	通常6ヵ月毎のプラン見直しをしているが、利用者に変化が生じた時には随時見直しをして、新たな計画作成をしている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の変化がわかりやすいようにセンター方式の書式を利用し、時間ごとに記録が出来るようにしている。また連絡ノートを作成し、情報を共有しやすいよう工夫している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族の状況に応じて、通院の送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	行事に際しては、ボランティアの協力を得ており、利用者の無断外出や防火訓練時は警察や消防との連携体制をとっている。教育機関と連携がとれるよう学校行事の参加、授業のグループワークも協力もしている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の希望に応じて、訪問理美容サービスを利用してもらっている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	日頃、運営推進会議等を通じ話し合いをしており、必要性が生じた場合は対応できるよう体制作りをしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ホームドクターはいるが、必ずかかりつけ医にする必要はなく、入所前からの医療機関に今も通院されている方もいて、本人、ご家族の希望にそって自由に行けるように配慮している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の専門病院受診時には、担当医に利用者の状態を良く伝え相談したりして、利用者が診断、治療を受けられるよう支援している。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	当事業所に看護師が配置されており、いつでも必要なときに相談して日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	面会の機会を多くもち、その機会に医療関係者との情報交換、相談に努め、担当医師から容態や今後の見込みについて説明を受け、早期退院受け入れに努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	出きるだけ早い段階から、スタッフはかかりつけ医と話し合い、家族とも話し合って全員で方針を共有している		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人や家族の意向をふまえ、医師、スタッフが連携を取り安心して納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	住み替えが必要になった利用者様がいる場合、移り住む先の関係者と積極的に情報交換するよう心掛け住み替えによるダメージを防ぐ事に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	言葉掛け、対応などは日々の支援の中で気をつけるようフロア会議で話し合いを行って配慮し対応している。記録物などの取扱いにも十分配慮している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	個々の能力を把握し本人が自分の生活を選択出来るよう支援している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の生活リズムや思いを尊重し出来る限り個別の対応が出来るようにしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	個性を大切に身だしなみ、おしゃれを支援している。毎月1回の訪問理美容サービスを提携、利用していただいている。他、家族が定期的にいつもの美容室へ連れて行ってくれる方もいる		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	可能な限り個別の好みを取り入れ献立作りをしている。また会話の中で内容を柔軟に変更して利用者様が食事を楽しめるように配慮している。食事の用意も個々の能力に合わせ準備や片付けをしてもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人ひとりの好みを把握しており、状況に合わせて日常的に楽しめるようにしている		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表により、個別の力やパターンを把握するよう努めている。把握した上で本人が快適に排泄が出来るよう必要ならば医師とも相談し、支援している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	夜間入浴の体制も整えてあり、その日の希望を確認して入浴していただいている。拒否のある方には決して無理強いせず、機嫌を見計らって声掛けをおこなっている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者様の体調を把握し、無理のないよう休息を促したり、夜間良眠出来ない場合は医師とも相談し良眠できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	利用者様個々の出来る事や、得意な事を見極め、参加してもらえそうな場面作りをしている。して頂いた時には感謝の言葉を伝え、やりがいにつながるようにしている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理が可能な方は、個人で所持している。保管場所、金額はある程度把握し、混乱のないように配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買物や散歩、ドライブ、外出レク、外食レクなど個別の希望を取り入れて、様々な形で出来けられるようにしている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族と普段から出かけられるよう配慮したり、月一回は外出するので利用者の希望をとり行きたい所へ行けるようにしている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	手紙、年賀状等、本人が送りたい、連絡を取りたいと希望を逐一聞き入れるようにしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	原則として訪問時間に制限を設けていない。利用者が体調不良の時は泊まっていられる家族もいます。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	すべての職員が禁止の対象となる「具体的な行為」を正しく理解し、身体拘束しないケアに取り組んでいる。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日長は鍵をかけず、自由に出入りができるようにしている。出たそうな様子ときは、それとなく誘ったり付き添ったりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>日中はホールに職員が居ないと事がないよう声掛けし合っている。夜間においてはこまめにな巡回を行い、利用者個々の様子が把握できるようにしている。</p>		
<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>薬、洗剤、包丁、ハサミなどの物品の保管、管理については明確に取り決めをして利用者に危険が及ばないように実行している</p>		
<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>一人ひとりの介護上の課題を明確にして(アセスメント)個別に応じた予防策について知識を身につけ、事故防止に備えている。また災害防止についても、全員で勉強会や実技訓練の機会をもっている。</p>		
<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>消防署の協力で救急救命法を指導してもらっている。また緊急時の対応はマニュアル化し、周知徹底を図っている。</p>		
<p>○災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>毎年避難訓練を実施しており、緊急時には地域の協力が得られるよう体制作りをしている</p>		
<p>○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。</p>	<p>個々の利用者につき、起こりえるリスクについて家族と話し合いその上で持てる力を発揮し、生き生きと生活できるようにしている。</p>		
<p>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</p>			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	個々の状態にあわせバイタルチェックを実施している。また顔色、食欲、元気の有無を常に確認し、異変を見逃さないようにしている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	「薬の説明書」を参考にして、理解を深めている。指示された薬剤が確実に服薬できるよう、また与薬後の変化についても確認に努めている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	季節の野菜を多く取り入れた食事としてもらったり、起床時に牛乳、デザートやおやつにバナナ等の排便を促す食品で自然排便が出来るようにしている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	一人ひとりの口腔状態や清掃監理能力に応じ、保清援助をしている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	「生活チェック表」に食事摂取量や水分量を記載している。時間配分も考えて、一日を通じて必要量が摂れるよう一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	高齢者施設で発生しやすい感染症についてマニュアルを備えており、予防対策に努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	「衛生チェック表」をもとに毎日、台所は清潔に保ち調理器具、フキンは消毒し衛生管理に配慮している。食材は毎日買物をして、新鮮で美味しく安全な食材使用に努め、食中毒を予防している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	季節ごとに楽しめる草花を植えたり、飾りつけを工夫して一般家庭の様な雰囲気作りをしている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	手作りのノレン、壁を下げ、カレンダー、写真や展示品利用者と一緒に作成し飾っている。出窓には季節感が感じられるよう鉢植えを置いたり、調理する音が聞こえたり、生活観を採り入れ居心地良く過ごせるよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルと椅子を設置し、各々自由に過ごさせる場所作りをしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には使い慣れた家具や好み装飾品が持ち込まれ、家族写真や仏壇なども置き、本人が安心して居心地良く過ごせるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	適時換気を行っている。冬季間は特に保湿にも配慮し対応している		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>廊下、浴室、トイレ、エレベーターなどに手すりを設置して、転倒予防など安全面と利用者の自立支援に配慮している。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>本人にとっての分かる事を見極めそれに応じた対応をしている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>建物の外回りは花壇や野菜畑を作り、芝生にはテーブル、イスを置き、お茶を楽しみながら日光浴をしている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ・美味しい食事の提供一隣に生協があり、いつも新鮮な食材が提供可能、利用者と散歩をかねていつでも買物に行ける
- ・近隣に各科病院が揃っているので速やかに受診対応可。また看護師配置があり、健康管理や医療面、安全面で安心して過ごせている。
- ・音楽療法を取り入れている
- ・内にこもらず、できるだけ外出、行楽など外に出るようにしている
- ・口腔ケアのエキスパートがいて、口腔保清管理に力を入れている。